

第7回

京都都市緑化
写真コンクール
入選作品集

(平成3年度)

主 旨

緑とオープンスペースは、大気の浄化・気温の調節など良好な環境づくりに大切な役割をはたしているほか、潤いのある生活環境の確保、レクリエーションの場の提供など多くの役割を担っており、安全で快適な都市環境の形成に欠くことのできないものです。

このような緑の重要性と都市緑化の必要性に対する理解を深めるために、10月を「都市緑化月間」と定め、今年度も全国各地で緑と公園に関するさまざまな行事が行われました。

京都では、この「都市緑化月間」の行事のひとつとして「街の緑と公園」「身近かな小さな緑」などを主題とした「第7回京都都市緑化写真コンクール」を行い、317点の応募作品の中から入選作品として優秀な作品38点を選びました。

主催 京都府都市計画協会
共催 京 都 府 ・ 京 都 市
(社)京都府造園建設業協会

入選作品一覧

京都府知事賞 「私の裏庭」
京都市長賞 「公開日」
(社)京都府造園建設業協会賞 「心やすまる緑」
優 秀 賞 「富小路公園」
(順不同) 「自然を大切に」
「ニュータウンロード」
「楽しい公園」
「ひととき」
「小さな緑化」
「花と緑のお家」
「植樹でカーテン」
「二人の森」
「新緑を楽しむひとたち」
佳 作 「花咲くゲート」
(順不同) 「盆栽の緑と花に囲まれて」
「緑の散歩道」
「せせらぎの道」
「緑と涼」
「街の中の小さな緑」
「街角の新緑」
「ビルの谷間のポケットパーク」
「緑のある生活」
「あめのちはれ」
「何がいの？」
「宿題は”お母さんごめんなさい”」
「森の中のイベント」
「ブランコ」
「緑を楽しむ」
「楽しい休日」
「街路樹」
「水と緑の憩い」
「赤と緑」
「緑のトンネル」
「緑の遊歩道」
「緑豊かな楽しい通学路」
「新緑映える」
「緑陰の下で」
「橋のある公園」

谷口 祥一
森津 二郎
橋本 健治
尼川 賢三
田畑 利夫
中川 敦夫
谷口 一男
柴山 明子
伊藤 照夫
滝本 正雄
安達 貞義
高木 延乃
谷口 敏子
吉田 忠明
貞廣 哲也
山田 昌次
川崎 良一
神内 宏輝
畑 精一
前川 敏彦
金井 昇
斉藤 かの
玉井 肇
玉井美八子
椿 泰弘
西 義雄
関本 信夫
斉藤 栄一
田中 均
横田 文雄
中野 豊
余田 英則
阪口 征生
一井 由清
安藤 業
石黒 熊夫
片月 敏雄
久保田 茂



「私の裏庭」 谷口 祥一



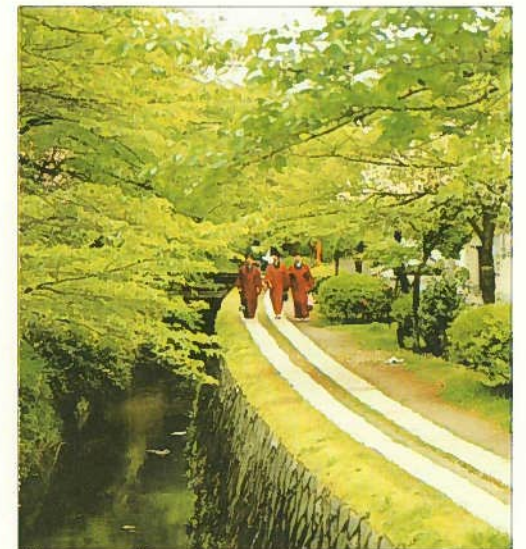
「公開日」 森 津 二 郎



「心やすまる緑」 橋本健治



「富小路公園」 尼川賢三



「自然を大切に」 田畑利夫



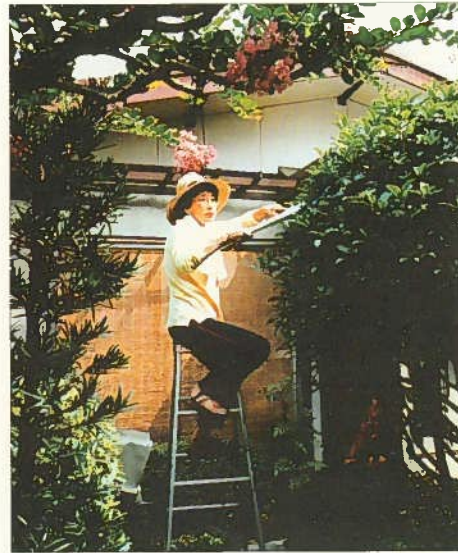
「ニュータウンロード」 中川敦夫



「楽しい公園」 谷口一男



「ひととき」 柴山明子



「小さな緑化」 伊藤照夫



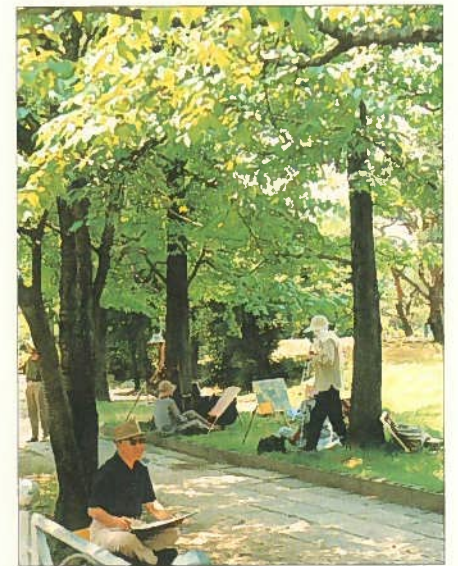
「花と緑のお家」 滝本正雄



「植樹でカーテン」 安達貞義



「二人の森」 高木延乃



「新緑を楽しむひとたち」 谷口敏子

— 佳 作 —



「花咲くゲート」 吉田 忠明



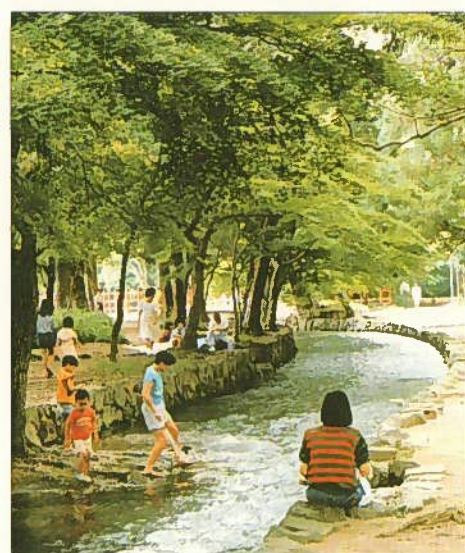
「盆栽の緑と花に囲まれて」 貞廣 哲也



「緑の散歩道」 山田 昌次



「せせらぎの道」 川崎 良一



「緑と涼」 神内 宏輝

— 佳 作 —



「街の中の小さな緑」 畑 精一



「街角の新緑」 前川 敏彦



「ビルの谷間のポケットパーク」 金井 昇

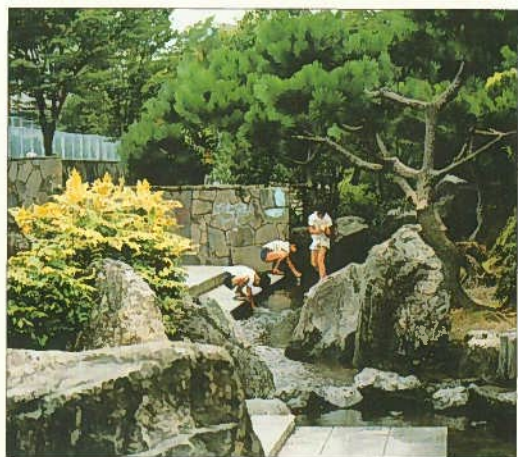


「緑のある生活」 斉藤 かの



「あめのちはれ」 玉井 肇

— 佳 作 —



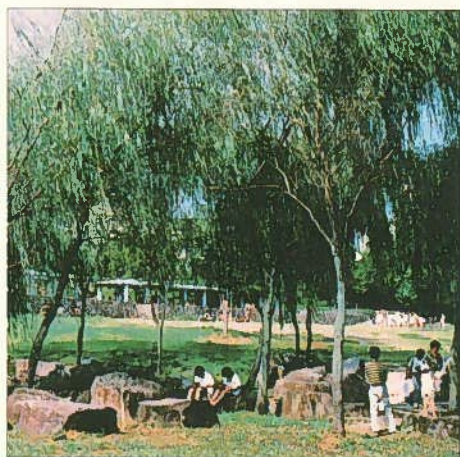
「何がいの？」 玉井美八子



「宿題は”お母さんごめんなさい”」
椿 泰弘



「森の中のイベント」 西 義雄



「緑を楽しむ」 斉藤栄一



「ブランコ」 関本信夫

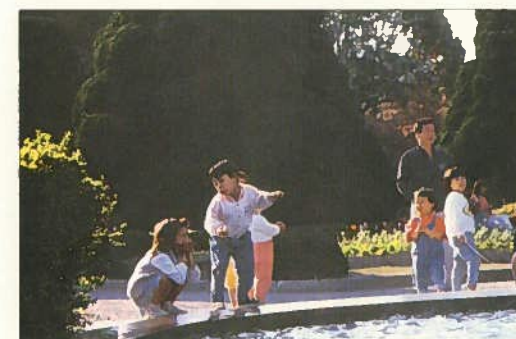
— 佳 作 —



「楽しい休日」 田中 均



「街路樹」 横田文雄



「水と緑の憩い」 中野 豊



「赤と緑」 余田英則

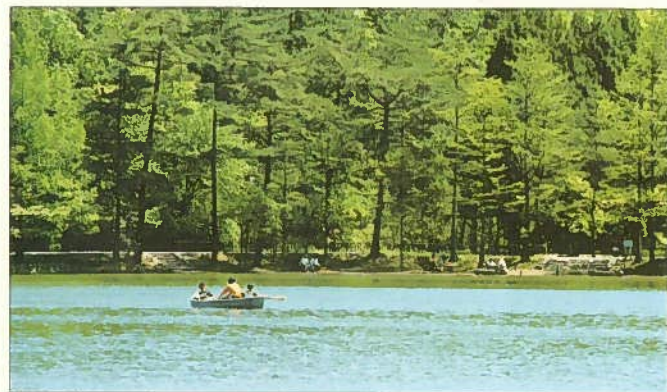


「緑のトンネル」 阪口征生

— 佳 作 —



「緑の遊歩道」 一井由清



「緑豊かな楽しい通学路」
安藤 業



「新緑映える」 石黒熊夫



「緑陰の下で」 片月敏雄



「橋のある公園」 久保田 茂

第7回京都都市緑化写真コンクール講評

古都保存文化写真協会会長

写真作家 小林 文 司

恒例になっている都市緑化写真コンクールの審査の日がやってきましたので、保存している入賞作品集を出して見ると6冊が綴られていました。

今年で第7回を迎えるわけですが、このコンクールの審査は当初から私が受け持っていましたので思い出すことは、漠然としたテーマのため甚だ難しく、応募者も私自身も迷いがあり、第1回、第2回あたりは今から思えば、内容や構図もお粗末で、作品としては今一つでしたが、それなりに順位を付けておりました。

それが第3回、第4回あたりから作者が常連化し、よく研究をし、努力を重ね、主催者や私が求めている内容のものが応募されるようになり、宣伝ポスターに採用され、印刷物にも出来る水準までに漕ぎつけました。

そして、第5回、第6回あたりから常連から新人へと新陳代謝をしてきたのです。これは甚だ結構なことですが、6冊の作品集を開いても分かるように、先輩が発表した作品の類似が多く、私自身も6年の間に研究もしましたので、その内容、表現力の追求は相当厳しいものをもって審査に臨んでいました。結果は、あまり贅辞に値するものではありませんでしたが、全体の水準は随分と上がり、この調子ですと、都市緑化について広く認識され、効果はあったと思います。

今年は審査会場も変わり、広いスペースに作品がぎっしり並び、一步会場に足を踏み入れた瞬間、私の目に会場全体が緑一色に見えたのには驚きました。尋ねてみれば、今年は応募者も作品点数も昨年を大きく上回っているとのことで、審査開始に当たり、私は大きく期待を持ちましたが、結果は昨年の出来栄と似たり寄ったりだったのが残念でした。

ですが、さすが上位3賞は、特徴として揃って垢抜けがしています。知事賞作品は、画面に緑は少ないけれども構図と雰囲気抜群に良い作品です。市長賞作品は、今迄にないアイデア作品で、随分計算をしています。協会賞作品は、雰囲気が近代的で印刷物にも使えます。総評としては、あまり格差がなく、入賞から漏れた作品にも惜しいものがあり、全体的に緑化に対する認識度は上昇しています。

今後の作品づくりについてアドバイスするならば、写真は原則として実在しないものは写りませんが、京の町家は消えて行き、庭の緑も捨てられて、殺風景な駐車場ばかりの昨今、もし、1箇所でも駐車場の中に緑豊かな花も交えた床が造られ、そこを車がロータリーし、出入りする様な作品が出来たとしたら、文句なしに第1位を取るでしょう。

京の町の駐車場に、大なり小なり緑のスペースが設けられたとすれば、駐車場の中に見る京都はどんなに変貌することでしょう。大気も随分浄化されることでしょう。今、京都は緑破壊の切羽詰まった重大な時にきています。

街にはいろいろな緑があり、それぞれ違った顔をしています。
そして、季節により様々な表情を見せてくれます。
身近な街の緑と親しむことから自然への理解や慈しみが深まり、心が豊かになれば良いと思います。

- 主催／京都府都市計画協会
- 共催／京都府、京都市、(社)京都府造園建設業協会
- 後援／建設省、京都府公園公社、京都府市長会、京都府町村会、
京都新聞社、KBS京都、NHK京都放送局
- 協賛／京都府造園組合連合会、日本造園修景協会京都府支部、
京都府写真材料商業組合、富士写真フイルム株式会社
(順不同)